

付属資料－10 地権者等からの意見聴取

1. 地権者意向確認調査（平成23年度 宜野湾市）の成果概要

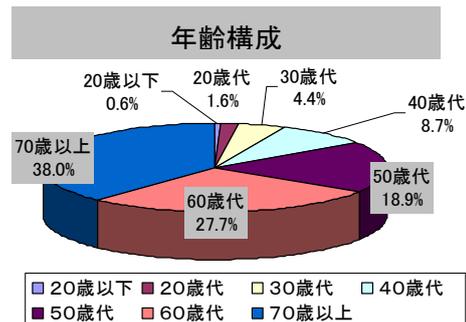
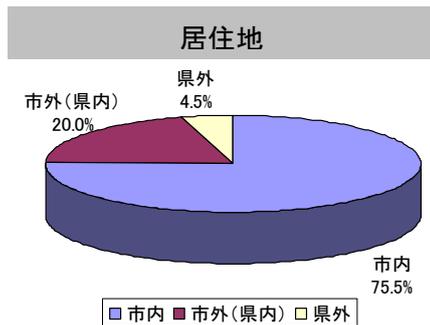
平成23年度「関係地権者等の意向醸成・活動推進調査」において「全体計画の中間取りまとめ」（案）（平成22年度）に対する意向把握調査を実施した。以下では、その結果概要等を示す。

<回答者属性>

- 調査の方法
 - ・ アンケート調査票による記名回答
- 調査の実施期間
 - ・ 配布・回収時期 平成24年1月16日～2月27日

配布・回収状況

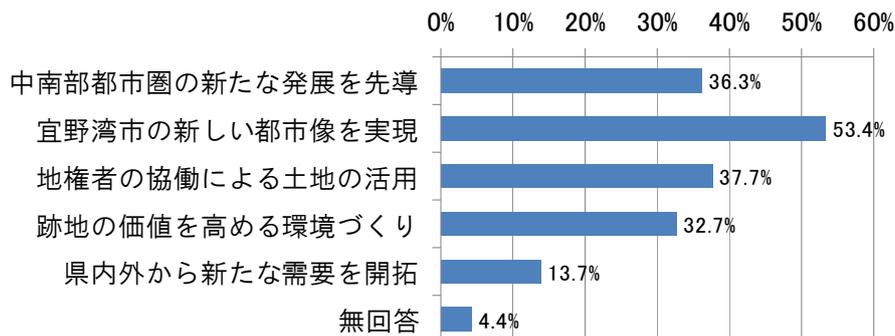
| 配布 | 回収 | 回収率 |
|-------|-------|-------|
| 3,128 | 1,051 | 33.6% |



1) 「まちづくりの目標」に対する意向

- 「まちづくりの目標」の中では、「宜野湾市の新しい都市像を実現」について地権者の関心が最も高く、現在課題となっている交通網や周辺市街地の環境改善に大きな期待を寄せている。
- 「中南部都市圏の新たな発展を先導」、「地権者の協働による土地の活用」についても約1/3の回答者が関心があると回答しており、目標として設定することが妥当と考えられる。

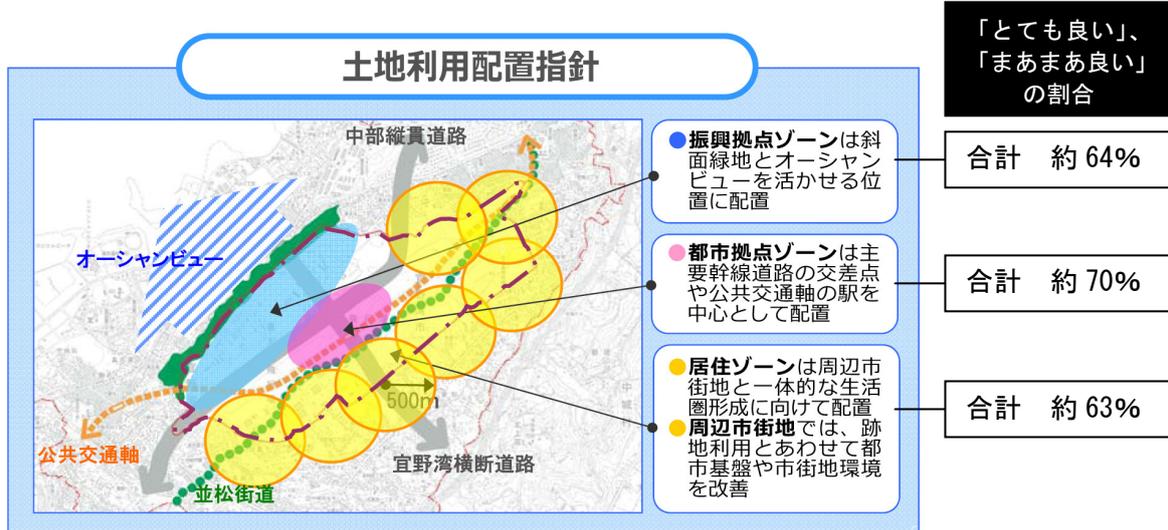
「まちづくりの目標」に対する意向（構成比は回答数1051に対する割合）



2) 「土地利用配置方針」に対する意向

- 「振興拠点ゾーン」、「都市拠点ゾーン」、「居住ゾーン」の配置方針については、地権者の6～7割が肯定的な意向である。

「土地利用配置方針」と地権者意向（構成比は回答数 1051 に対する割合）

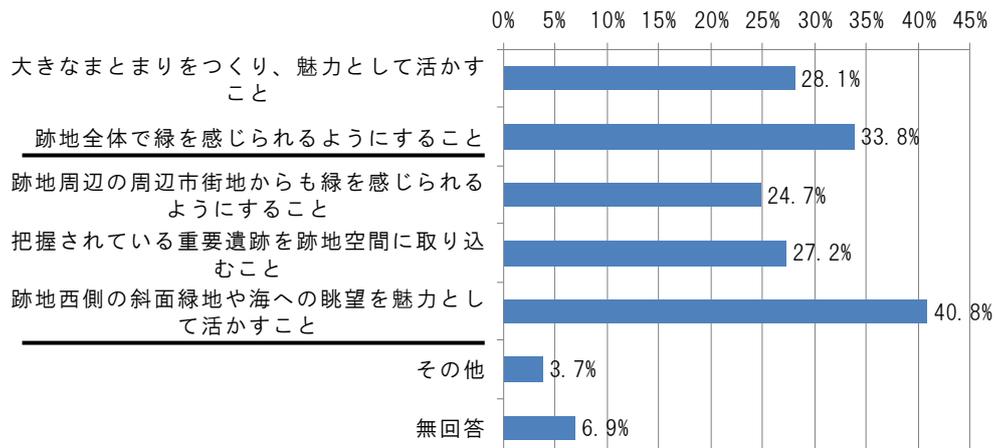


3) 「公園・緑地空間の配置」に対する意向

- 公園・緑地空間を配置する上で重視されていることは、「跡地西側の斜面緑地や海への眺望を魅力として活かすこと」、「跡地全体で緑を感じられるようにすること」であり、これらを「全体計画の中間取りまとめ」(委員会案)に反映する。

「公園・緑地空間の配置」について重要と思うこと

(構成比は回答数 1051 に対する割合)



4) 「公園・緑地空間配置パターン比較案」に対する意向

- 公園・緑地空間の配置については、「ネットワーク型」を希望する地権者の割合が多い。本結果と広域緑地(普天間公園等)の計画方針(平成23年度)を踏まえ、「全体計画の中間取りまとめ」(委員会案)では、ネットワーク型の公園配置を基本とする。

「公園・緑地空間配置パターン比較案」に対する意向

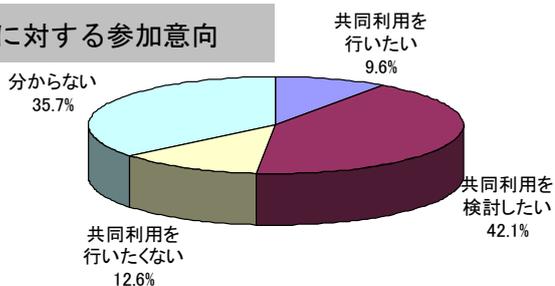
(構成比は回答数 1051 に対する割合)



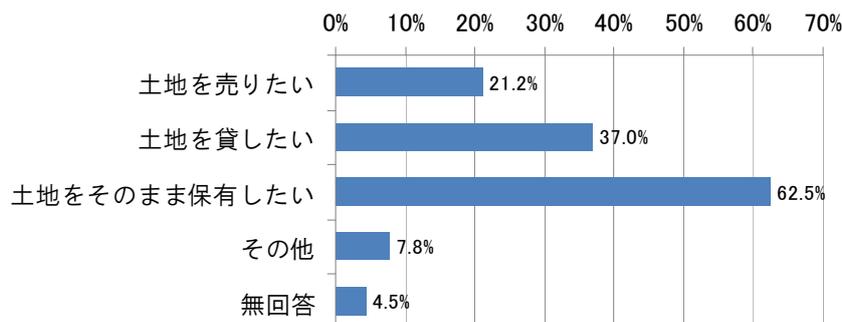
5) 土地活用意向

- 土地の共同利用については、5割以上の方が「行いたい、検討したい」と回答している。
- 地権者の6割以上が、土地の一部または全部を「保有したい」と考えている。

土地の共同利用に対する参加意向



希望する土地活用方法 (複数回答)



※ 回答数は 1,398

構成比は回答者数 (1,051) に対する割合

2. 「全体計画の中間取りまとめ」(委員会案)に対する地権者等からの意見聴取

「地権者懇談会」(平成 25 年 3 月 2~4 日)において、「全体計画の中間取りまとめ」(委員会案)に対する意見聴取を実施した。以下に主な質問・意見を整理する。

■ 道路について

- 西海岸道路から沖縄自動車道に向かう横断道路は、防災面を考えると最低 2 本は必要。
- より良いまちとするために沖縄自動車道からのアプローチを検討することが重要。宜野湾市が通過都市にならないように。

■ 公園について

- 今回考えられている規模の公園を国営公園として実現できなければ、地主は土地を手放さない。
- 計画案にある公園も含めた素晴らしいまちをつくって欲しいと思う一方、減歩率との兼ね合いも大きい。地権者の理解を得るためには、行政がどれだけ説明していくかにかかっている。

■ 土地利用について

- 個人的には公園・緑地の面積を少し減らして、商業地域にまわしてほしい。雇用効果も含めて、企業誘致ができるまちづくりが必要。
- IT関係の情報通信産業を誘致することで経済効果もあるのではないか。
- ニューヨークのような高層のマンションが並ぶまちづくりをすべき。今の計画には、宜野湾市市民の思いや魂が詰め込まれすぎているように感じる。
- 住みやすいまちにしないと、市外、県外から移住してこない。

■ その他

- 現在、電力不足であるため、太陽光を活用した施設をつくってはどうか。沖縄の場合、太陽は無限に活用できる。
- 墓地公園も必要。